

《研究ノート》

中国南部少数民族の成年式について

大林 太良

一 はじめに

中国南部の少数民族の社会生活の研究は十分進んでいない。何よりも、詳細かつ密度の高い報告が絶対的に不足しているのである。それ故、ここでは、さまざまな報告書に散見する資料をまとめて、若干の見通しを立てることで満足しなければならぬ。

二 獠族

獠族に関する諸報告のうち、LEUSCHNER の報告は、今世紀の初頭の、広東北部の獠族の中国化が比較的進んでいない段階の实地調査に基づくものであるだけに、その個々の記述に部落名を明記しないなどの欠陥はあっても、高い価値をもっている。

LEUSCHNER によれば、若者が一六歳の年を終えるや否や、一種の堅信礼が行なわれる。酋長にして祭司なるものが呼ばれ、彼が若者のために《天の》諸霊を呼び寄せ、《地》のものた

ちを満足させる。若者を邪悪から安全にするため、祝福が与えられる。これに割礼が伴っているか否かは、LEUSCHNER は明らかになかった。祭司が職務を果すあらゆる場合に、道教の角笛として知られている楽器が奏せられる。《天の》諸霊に重要な通知を行なうときには、いつもこの笛を吹くのである。

堅信礼は、当該の家屋に貼る告示によって公表される。LEUSCHNER が引用した告示は、漢字で書かれた読み難い文章であって、至高神が、未払いの貢納物を取り立てるため、成年に達するもの (die „Kommenden“) の申告をするため、また地上の幸福をもたらし、邪悪を追い払うために、軍勢を派遣するという意味の内容で、至高神に仕えるものの署名が記されている。<sup>(1)</sup>

LEUSCHNER は、女子の成年式については何等述べていないが、少女は一六歳になる前には結婚しないと記している。<sup>(2)</sup> 男女ともに一六歳が社会的成熟期なのである。

さて、上記の成年式を以ってしても、獠族の男子は、まだ完全な《市民権》をもったことにはならない。そのためには、更に別の儀式を祭司のところで済ませることが必要である。これによって始めて、男は選挙権と発言権をもち、また特定の装飾を身につけることが許される。<sup>(3)</sup>

ところで、LEUSCHNER が報告した広東省北部の獠族少年の《堅信礼》と、その後舉行されるもう一つの儀式を、その後の中国人学者の諸報告と比較するとき、この二つの儀式は、いわゆる《拜王》と《度身》に相当するものではないかと思われる。

る。そして、この二つの儀礼は、実は勲功祭宴の性格を強くもっているのである。

まず、拝王を見よう。拝王は一六歳という特定の年齢とは結びついていない。姜哲夫、張復、龐新民によれば、貉の習俗では、成年の人は必ず拝王を行なう。拝王によって福を祈り、また主催者の社会的地位の増進が行なわれる。但し、経済的な事情により、四、五〇歳になって拝王を行なうものもいる。拝王を行なう人が、その主催者である。胡耐安は、拝王は、成年男子でやや書を読み、字を識っているものなら催せる、比較的容易に行なえる行事だという。他方、龐は、男子は年齢や既婚か否かを問わず、すでに拝王を行なったものは、度身を行なうことが出来るが、女子は拝王を行なっていないなくても、子供を生めば度身が祝えたと述べている。これらの報告から考えて、拝王は度身よりも前の段階の個人的儀礼であって、それによって主催者の社会的地位が増進することと、成年に達すれば、なるべく早い機会に、結婚前でも催すことができることがわかる。従って、成年後直ちに、結婚前に拝王を行なう場合には、拝王は個人的成熟祝いとしての性格を強く帯び、Leuschner のいう《堅信礼》的な色彩を濃厚にもつこともであると考えられる。それにも拘らず、これは成熟祝いそのものではない。経済的事情によつては、四、五〇歳まで延す場合があるからだ。従つて、Leuschner の報告は、この儀式の成熟祝いの性格を捉えた点では正しかったが、成熟祝いそのものと見たのは、この儀式の勲功祭宴の性格を十分理解していなかったと評することができ

よう。

さて、拝王においては、貉族の始祖盤古王を拝し、福を祈るのであるが、まず近くの山の神(竜神)を家に招いて祀る。祭儀には、拝王の主催者と、四人の巫者(地方の有力者、村長甲長やその子となる)、と雑役の者が参加し、巫者の一人が主巫となる。祖先が祀られ、番薯、稲粟が献じられ、肥った豚を一匹殺して(主催者の?)生魂を敬し、上界の神々、下界の神々を招きかつ送るのである。拝王は度身と同様、陰曆の一月に举行される。これによってみれば、拝王には、祖先祭祀、收穫祭としての側面もあることが明らかである。

次に度身を見よう。拝王が小登科(小試験)であるに對して、度身は大登科である。度身は貉族の極大の典礼である。度身を行なうことによつて、主催者の知識本領は増進し、村人から重視されるようになり、村長になる者は、必ず度身を済まさないではならない。度身を済ませたものの靈魂は、死後、天堂(極樂)に登ることが出来る。度身においても拝王の場合と同様、豚が一匹屠られる。度身儀式の中で注目すべきことは、《開天門》と呼ばれる行事のうち、《過刀山》ということが行なわれることだ。つまり、刃先を上にして刀を何本も、一步の間隔で地面につき立て、度身を受ける者は跣足でその上を往復するのである。Wissig が、この所作を、死後に靈魂が辿る困難な道筋を象徴的に表現したものと解釈したのは、この行事全体が《天門を開く》と呼ばれていることから見て、正当であろう。このような他界との関係は、成年式や勲功祭宴において、世界

的にしばしば見られるところである。なお、龐の報ずる度身の告知の文章は、<sup>(11)</sup>LEUSCHNER の記録した上記の《堅信礼》の告知の文章と酷似している。このことは、後者のいわゆる《堅信礼》が、実は度身の前段階たる拜王を指すという筆者の解釈を支持するものであろう。

以上、我々が見て来た拜王、度身は、その本質においても勲功祭宴であるが、拜王には、ある程度、個人的な成熟礼の性格を認めてよからう。しかし、度身は、より典型的な勲功祭宴である。

広東の獠族には、このような個人的な勲功祭宴の他にも、成年式的性格をもった行事があり、しかも集団的に举行される。

李季瓊の報告によると広東省油嶺の獠族では、五年に一回、大歌堂、一二年乃至一三年に一回、小歌堂、一四年乃至一五年に一回、旺歌堂という大祭が催される。大歌堂は旧曆九月に催され、その祭の間、丘の頂上の村の社にあるすべての偶像が取り出され、行列して運ばれる。この行列の先頭に、太鼓を叩き、美しいスカートをつけた男が何人かいる。夜でさえ、偶像は社に返されず、男たちは村のさまざまの部分に、樹皮でつくった屋根の中に偶像を安置する。男たちは、夜、野外で寝る。中年以上で、自分の部族の伝説、歴史、伝承を知っている者は、これらを知らない他の者たちに、それらを語ってやる。これが、伝説、歴史、伝承を世代から世代へと伝える方法である。若い人達は愉快に時を過し、歌ったり踊ったりする相手を見つけ、したいことを何でもやる。安戈銘によれば、広東省北部の

獠族が三年に一回、一〇月一六日に催す要歌堂の祭りは、山嶺を切り開いた天塘という湖畔で催される。催しが始まる前に、先祖の盤古氏の社の前に未婚の男女が赴き、巫師が祈禱して式があげられる。そのあとで歌垣が展開するが、この時、年配者は未婚の男女に向けて歌曲の調子で結婚の伝統的精神を教え、青年男女に性教育を指導する。こうしてみると、北部広東の獠族における大歌堂あるいは要歌堂といわれる五年乃至三年に一回の大祭は、若い人たちに集団的に伝承を教え、性教育を授ける機会であって、集団的な成人式の性格が著しく強いといつてよい。しかし、それは、村の大祭、あるいは一種の祖先祭祀という形式をとっている点において大きい特色がある。

龐新民によれば、広西嶺山の獠族も拜王や度身を行なうが、近来举行するものが少なくなったという。<sup>(12)</sup>しかし、王同恵が報告した広西象県東南郷の花籃獠族においては、明瞭な成年式が行なわれている。

花籃獠族は、男女とも一〇歳から一三歳の間に婚約し、一五歳を過ぎれば結婚できる。<sup>(13)</sup>男子は一五歳を境に結髪法を変え<sup>(14)</sup>るところで、この一五歳ごろに、男女を問わず成年式が行なわれる。つまり、性的に成熟し、かつ仕事の責任が負わされるようになる年齢である。

女子の成年式は比較的簡単であって、父母が娘の代りに好日を選び、髪結いの老婦人に来てもらい、大人の髪に結い直してもらい、また娘の家では、この髪結いの婦人と、親近の族人を

招いて酒宴を催すだけである。<sup>(17)</sup>

これに反して、男子の成年式は花籃猿族にとって、極めて盛大な儀式であり、男子の一生中の極めて嚴重な関門でもある。注目すべきことは、この儀式は《度齋》*Doen* と呼ばれていることであって、筆者（大林）は、広東の度身と同語だと思つてゐる。

男子は普通一三歳から一五歳の間に度齋を挙行するが、もしこの少年が生家にとどまり嫁を迎えるものであれば、自己の父母の家で挙行し、もし婿入りするものであれば、岳父父母の家で行なう。後者の場合、挙行は結婚後となるので、おそくなる。

農繁期も過ぎて、一月か一二月になると、度齋を受ける少年の父母あるいは岳父父母は好日を選んで、息子や婿のために儀式を催す。彼等はまず家の中に二層の高さの床を組み立てる。下層には太鼓と剣を置き、上層には新しい掛布団と敷布団を敷いて、度齋を受ける少年を寝かす。彼等はまた新しい衣服を作る。度齋開始の時、少年は高床の上に横たわり、肉も酒も油も食はず、ただ白飯を食べることができるだけである。このようにして五日間を過すが、毎日、度齋をすでに受けた人がやつて来て、少年に跳舞と道士になるのに必要な一切の知識を授ける。このとき、少年の髪を田螺状の大人の髪かたちに結い直すか、もしも少年が一五歳未満だったら、儀式後は男児の髪にもどしてもよい。

第五日の晩、全村の男女と隣村の親戚がみな少年の家にやつて来て、豚を殺して宴会を催す。この晩、度齋をうける少年は

跳舞をお客の前で踊らなくてはならない。跳舞ができることは花籃猿族の社会では一人前の男子の条件である。踊り終つて少年はまた高床の上で休息する。すると男の客が跳舞する。また門外では、男の客と女の客とが掛け合い歌を行なう。つまり度齋は、花籃猿族の男女の恋愛の好機会なのである。このような跳舞と唱歌は三晩つづく。普通、度齋は五日間であるが、受ける少年がすでに一五歳を過ぎていれば、七日間を要する。もし男の妻が妊娠していて、しかも男がまだ度齋を受けていないときは、彼は永久に受けることができない。

王同恵によれば、度齋の意義は、少年を《道士》にすることにあると彼等はいつている。つまり、道士とは一家の宗教の領袖であつて、悪霊を驅除し、神を召し、祖先と往来することのできるものである。彼はまた各種の社会的儀式に参加したり主催したりできる。度齋を受けていない男子には、この種の能力がなく、社会の完全な成員になれず、集会にも参加できず、甚しきに至つては、度齋を受けた人と同じ卓で食事もできないのである。<sup>(18)</sup>

ここでは拜王と度身の二つが度齋という単一の儀式になつており、明瞭な個人的成熟祝いとなつてゐる。少年が床に寝るのは、死と再生のシンボリズムであらう。また、度齋で特徴的なのは、道士のイニシエーションの性格をもつてゐることである。BERHARD は、跳舞は普通の踊りでなく、シャマンの踊りであり、床の下層におく太鼓と剣は、シャマンの採物であると論じてゐる。<sup>(19)</sup>

雲南省では文山、蒙自、紅河哈尼族自治區や西双版纳の易武など辺沿地帯に苗族が住んでいる。雲南の苗族の男子は一二歳から二〇歳の間必ず《度戒》儀式を挙行しなければならぬ。麻栗坡東一帯の苗族は、度戒の時に天橋を渡る儀節がある。つまり、巫師によって引率された度戒を受けるものは木架で組立てた天橋を通すのである。度戒を受ける者は苗族の移動の情況と戦争の歴史を背誦しなくてはならない。天橋を渡って後、巫師は少年に同年輩、兄弟の順序、それに字派に従って名を授け、成人に加える。天橋を済ませた青年は容易に家人の信任と少女の愛慕を博することができる。度戒とは恐らく度身、度斎と同系統の語であろう。また天橋を渡ることも、他界への道を象徴したものであろう。この場合、成年式である。

### 三 若干の考察

以上が現代の中国内部の苗族の成年式資料である。

このような苗族の実例、ことに広東の度身と著しい類似を示しているのは、四川省の川苗族の成年式《過関》である。少年が一二歳になると、家の床に一二個の鉢が一行に置かれ、鉢から一尺離れて真直に一二本の鋭利な小刀を並べる。端公(シヤマン)が最初に歩み、各々の鉢と小刀を踏み、少年がつづいて同様に踏む。この儀式は少年を護り、その後は成人と見做されて尊敬される。<sup>(24)</sup>

興味深いのは、広東の度身、川苗の過関において剣を踏むの

が成年式であり、また花籃苗族の度斎においても、少年が横たわる高台の下層には剣がおかれることである。刀剣が、苗族の成年式の重要な要素なのだ。ここで思い出されるのは、今から四〇〇年前すでに『炎激紀聞』に男児は鉄石を焼いて足の裏を烙き、また男児が生まれると、その児と同じ重さの鉄を毒水の中に漬け、長ずるに及んでこの鉄で刀を作り終身これを用い、試し斬りには牛を斬るとある記事である。同様な記事は更に古く一四世紀始めの『文献通考』にも槃瓠蛮の習俗として出ており、EBERHARD はこれを成年式と関連づけた。後世においては、諸匡鼎『猿獠伝』や、成襄子「湖南苗猿問題考述」もほぼ同内容、同文の記事をのせている。<sup>(25)</sup> また雲南の哈瓦(Wa)族についても近年同様な鉄剣と成年の關係が伝えられている。ただ、これら一連の近年の猿や哈瓦に関する記事は、实地調査による報告によって検証されておらず、文章からみても、噂によるか(哈瓦)、古文獻の引き写し(猿)の疑いが濃い。従って、最近まで事実このような習俗があったかは問題ではあるが、他方、昔の猿族、およびその祖先においても鉄剣が成年式において重要な役割を果たしたらしいことは無視できない。つまり、猿文化における個人的男子成熟祝いは、鉄器文化において形成乃至展開したことを示唆しているからである。

第二に成年式と勳功祭宴との關係の問題がある。広東の猿族を除いては、上記の資料中には両者の性格を兼ね備えた例はないが、雲南南部の Mangshih Tai 族の pay 儀礼もそのようなものである。FRIEDRICH が分析した如く、勳功祭宴は一般

に《通過儀礼》としての側面をもっており、しばしば成年式との類似を示しているが、<sup>(23)</sup>勲功祭奠と成年式との間の関係は、更に分析を必要とする。<sup>(24)</sup>

最後に、歌垣と成年式との関係について一言したい。上記の例のうち、花籃猪の度齋に当って、歌垣のような男女の掛合い歌が行なわれること、また広東の場合、歌堂も神王も季節的にはほぼ同じころ行なわれ、かつ共に祖先祭の色彩が強く、かつ歌堂には集団的成年式の色彩があるなど、歌垣と成年式の密接な関係を物語っている。VANNICELLI が、中国南部からインデシナにかけての歌垣が成年式から発生したと考えたのは、<sup>(25)</sup>傾聴すべき見解と思われる。

- (1) LEUSCHNER 1911: 260—262.
- (2) LEUSCHNER 1911: 263.
- (3) LEUSCHNER 1911: 262.
- (4) 姜、張、龐、一九三二、一〇二。
- (5) 胡、一九六四、二二五。
- (6) 龐、一九三五、四二。
- (7) 姜、張、龐、一九三二、九〇—一一九、なお本論文の WIST (1936: 131—144) による独訳には、適切でない個所がいくつもある。
- (8) 龐、一九三五、三七—三八。
- (9) 龐、一九三五、三七—四〇。
- (10) WIST 1938: 131.
- (11) 龐、一九三五、四〇—四二。

- (12) LEE 1939: 381—382.
- (13) 安、一九五五、一〇五—一〇六。
- (14) 龐、一九三五、一四〇。
- (15) 王、一九三六、三十四。
- (16) 王、一九三六、一二。
- (17) 王、一九三六、一三。
- (18) 王、一九三六、一三一—一四。
- (19) EBERHARD 1942 a II: 50. 北部トキンンの猪諸族、<sup>(26)</sup> Mans Quan Trang 族 (Bonifacy 1904: 826, 1905: 1699—1700) Mans Deo-Tien 族 (Bonifacy 1904: 2) Mans Ta Pan 族 (Bonifacy 1904: 4) の祭司の加入儀礼が、これに比すべきものであろう。
- (20) 楊、張、一九五六、三五。沖繩のイザイホー儀礼と比較せよ。
- (21) GRAHAM 1937, 松崎訳、八六。
- (22) 田、一五五八、卷四、一八〇。竹村卓二氏の教示による。
- (23) EBERHARD 1942 b: 203, cf. 1942 a II: 400.
- (24) 林、一九三六、訳下、二四八—二四九。
- (25) 成、一九三五(林、一九三六訳下、二五六所引)。
- (26) 胡、一九三六、第四冊、下篇、卷八、一九。
- (27) TIEN 1949, 綾部、一九五六。
- (28) FRIEDRICH 1954: 25—26.
- (29) 北部トキンンの Mans quan trang 族 Mans-Ta-Pan

族における二段階あるいはそれ以上の段階に分れた祭司の  
《インシエーション》も、実は拜王と度身のような敷衍祭  
宴的性格のものかも知れない。

(95) VANNICELLI 1955: 203.

文献 (\* 間接に引用したもの)

- 安戈銘、一九五五『中国少数民族風光』香港  
綾部恒雄、一九五六「タイ族に於ける社会統合の一側面——  
バイの推移儀礼を中心として——」『日本人類学会日本民  
族学協会連合大会第一〇回紀事』一五四—一五六。  
BORRACAY, A. 1904. Les groupes ethniques de la Rivière-  
Claire. *Revue Indo-Chinoise* 1 (30 Juin): 813—828, 2  
(15 Juillet): 1—16  
…1905. Monographie des Man Quang Trang. *Revue Indo-  
Chinoise* (30 Nov. 1905): 1597—1613  
成瀬子、一九三五「湖南苗裔問題考述」『新曲細曲』一〇—  
五\*  
姜哲夫、張似、龐新民、一九三二「拜王」『中央研究院歴史  
語言研究所集刊』四一一、八九—一九。  
EBERHARD, W. 1942a. *Lokalkulturen im alten China*, 2  
Bde. Leiden und Peking  
…1942 b. *Kultur und Siedlung der Randvölker Chinas*.  
Leiden.  
FRÄDRICH, A. 1954. Die Verdienstfeste der Naga-Berg-

bauern in Assam. *Völkerforschung (Veröffentlichungen  
des Instituts für Deutschen Volkskunde* 5): 23—28.

GRAHAM, D. C. 1937. Customs of the Ch'uan Miao. *Jour-  
nal of the West China Border Research Society*, 9: 13

—70\* (邦訳、松崎寿和『苗族と獮獠族』五七—一二二、

東京、日光書院。

胡耐安、一九六四、『中国民族志』台北、商務印書館。

胡模安、一九三六『中華全国風俗志』四冊、上海、大達圖書。

LEE, Kwei-King. 1939. The Yao Family in Birth, Ma-  
riage and Death. *Lingnan Science Journal* 18: 371—  
382.

LEUSCHNER, F. W. Die Yautse in Südchina. *Mitteilungen  
der Deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde  
Ostasiens*, 13: 237—289.

林惠祥、一九三六『中国民族史』上海、商務印書館(大石・

中村訳『支那民族史』上下、東京、生活社、一九三九)。

龐新民、一九三五『兩広嶺山調査』上海、中華書局。

田汝成、一九五八『炎徼紀聞』(嘉業堂叢書)。

T'ien, Ju-K'ang. 1949. Pai cults and social age in the  
Tai tribes of the Yunnan-Burma frontier. *American  
Anthropologist* 51: 46—57.

VANNICELLI, L. 1955. La fête des fiançailles et l'amour  
des fiançés chez les peuples de l'Extrême-Orient.  
*Internationales Archiv für Ethnographie* XLVII: 160—

203.

王同惠、一九三六『広西省象泉東南郷花藍猪社会組織』(広西省政府特約研究專刊)

Wüst, H. 1936. Religiöse Feste und Bräuche bei den Yap-Stämmen in Kuantung (Südchina). *Zeitschrift für Ethnologie* 68: 124—141.

— 1938. Die Yao in Südchina. *Baessler-Archiv* 21: 73—135.

楊毓戈、張寒光、一九五六『雲南少数民族風俗習慣』雲南人民出版社。

(追記)

脱稿後、H. Stübel and Li Hua-min. Die Hsia-min von Tse-muschan. *Academia Sinica Monograph* des

Institutes für Sozialwissenschaften No. VI Nanking 1932 を読む機会を得た。それによれば浙江省景甯勸木山の畬民(猪族の一派)の男子は一六歳以上になると、豚、鶏、米を供えて、祖先供儀を行なうことができる。これを行なった者とその妻は特別の服装が許され、かつ男は法という字で始まる名をつけることが出来、中国人の科擧の秀才のように尊敬される。祖先供儀を行なったものは一種の祭司の位を得、死後も城隍の裁判を常人よりも早く通過できる。また女の中では、祖先供儀を行なった家族の女に対してのみ儀礼的な死者祭儀が催される(三〇、三二—三五)。祖先祭祀、勲功祭奠、他界との関係が顕著である。

(東京大学助教授・一橋大学非常勤講師)